

2017



横浜スペイン協会 スペインサロン



6月のスペインサロンは、清泉女子大学教授・吉田彩子先生をお迎えして、ミゲル・デ・セルバンテスの名作「ドン・キホーテ」から、下記のテーマでお話を伺います。先生のご専門は、スペイン17世紀の詩人「ルイス・デ・ゴンゴラ」の研究、他にスペイン近現代文学作品の翻訳と紹介など多方面にわたっています。皆様のご参加をお待ちしております。



『ドン・キホーテ』に見る黄金世紀のマイノリティ：  
ユダヤ人、モリスコ、ヒターノ、黒人、山賊

『ドン・キホーテ』には16世紀中頃から17世紀初頭にかけての社会が投影されており、歴史の表舞台では語られることの少ないマイノリティたちに関わる記述も多く見受けられる。15世紀末に設置された異端審問所が対象にしていた改宗ユダヤ人、16世紀後半から国内の大問題となったモリスコ（キリスト教に改宗したアラビア人）の問題、ヒターノ（スペインのロマ）、黒人奴隷、さらにはカタルーニャの山賊まで。セルバンテスはこの人びとにどんなまなざしを注いでいるかを、作品の記述を手がかりに考察する（吉田彩子記）。

日時：2017年6月17日（土）13:30～15:30

場所：波止場会館1F 多目的ホール

JR 関内駅下車徒歩15分、東急・みなと

みらい線日本大通り駅下車徒歩3分

参加費：会員900円、非会員1000円

お申込み&お問い合わせ：

Tel&Fax: 0467-43-6973

kfk.2010@clear.ocn.ne.jp（服部）

又は、info@yokohama-spain.



吉田彩子氏 プロフィール 福岡県生まれ

清泉女子大卒業後、スペイングラナダ大学でエミリオ・オロスコに師事。専門はスペイン文学。上智大学大学院博士課程満期退学。1976年より清泉女子大学で教鞭をとる。2017年3月退職予定。スペイン王立コルドバ・アカデミー（RAC）会員、国際黄金世紀学会（AISO）会員、国際スペイン学会（AIH）理事（2010～2013）。著書にルイス・デ・ゴンゴラの「孤独」－翻訳・評釈－（筑摩書房）、共著「バロックの愉しみ」（筑摩書房）、翻訳にフアン・バレラ「ペピータ・ヒメネス」（主婦の友社）、エミリオ・オロスコ「ベラスケスとバロックの精神」（筑摩書房）、バリエ＝イン克蘭「冬のソナタ」（西和書林）ほか多数。

